

奄美群島日本復帰 70 周年記念



奄美市

市勢要覧 2023

Amami City Guide 2023

祝

奄美群島日本復帰 70 周年

語り継ぐ

～次世代へ～



おがみ山の
復帰記念碑



復帰運動の中心となった
名瀬小学校の石段



奄美市公式キャラクター
コクトくん

名瀬の街並み

目次 / CONTENTS



祝! 奄美群島日本復帰 70 周年	4
世界自然遺産の島 奄美	8
奄美群島国立公園	10
貴重な動植物の宝庫 奄美の森	12
奄美市を彩る 祭り・イベント	14
1. 健康で長寿を謳歌するまちづくり	16
2. 観光立島を目指した多様な産業連携のまちづくり	18
3. 自然に囲まれた快適な暮らしのまちづくり	20
4. 地域の中で教え、学ぶ教育・文化のまちづくり	22
5. 魅力ある地域づくりに向けて	24
奄美市の財政状況	25
奄美市のあゆみ	26
奄美の歴史概要	30
市章・市木・市花等	32
Map & Data (奄美市の地図と主なデータ)	34

日本復帰前後の名瀬の街並み (昭和27~28年頃)



鹿児島県奄美市は、平成18年3月20日に名瀬市・住用町・笠利町が合併して誕生しました。

奄美市の面積は島全体の約4割を占め、中核都市機能を持つ名瀬地区、緑豊かな森林と清流を持つ住用地区、広い農地と美しい海岸線を持つ笠利地区で構成されています。

そして、奄美大島は国の特別天然記念物アマミノクロウサギなどをはじめとした希少野生動物の宝庫でもあり、その価値が世界的に認められたことにより、令和3年7月26日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産に登録されています。

また、島唄や八月踊りといった島ならではの伝統文化や、各地域で保存されている史跡・建造物など、有形無形の文化財が数多く遺されており、こうした歴史とロマン漂う空間も本市の見どころのひとつとなっています。

第二次世界大戦終戦後、奄美群島を含む北緯30度以南の南西諸島は日本から行政分離され、米軍の統治下におかれていましたが、島民や関係者が一丸となった非暴力・無血の復帰運動の末に、悲願の日本復帰を果たした歴史がございます。

令和5年(2023年)は、昭和28年(1953年)に奄美群島が日本に復帰して70周年の節目の年です。先人が守り受け継いできた想いや団結する精神を語り継ぎ、島の宝を世界に広く発信してまいります。

この市勢要覧を通じて、復帰の歴史や、奄美市のことを知っていただき、興味をお持ちいただけましたら幸いです。

奄美市長 安田 壮平

On March 20, 2006, the towns of Naze, Sumiyo, and Kasari merged to form Amami City.

Amami City makes up 40% of the island of Amami Oshima and consists of three areas; the bustling main center of Naze, the deep forests and clear streams of Sumiyo, and the vast farmland accompanied by the breathtaking coastline of Kasari.

Amami Oshima is renowned for its diverse range of rare flora and fauna. Among its notable inhabitants is the Amami rabbit, a nationally designated Special Natural Monument. Recently, the global significance of the region was recognized, leading to the registration of Amami Oshima, along with Tokunoshima, Northern Okinawa, and Iriomotejima, as a UNESCO Natural World Heritage site on July 26, 2021.

Furthermore, the air of nostalgia and remnants of its rich history are part of the attraction of Amami City. Many cultural assets remain, such as historic sites and buildings preserved in each region and traditional cultures like 'shima-uta' folksongs and 'hachi-gatsu odori' dances.

After World War II, the Nansei Islands south of 30 degrees north latitude, including the Amami Islands, were administratively separated from Japan and placed under the control of the U.S. military. Islanders and related parties united in a peaceful movement, and their efforts resulted in the long-awaited return of the islands to Japan.

The year 2023 marks the 70th anniversary of the return of the Amami Islands to Japan in 1953. We will continue to carry on the dreams and spirit of unity passed down through the generations as we showcase our island to the world.

We sincerely hope this booklet piques your interest in Amami City and the history of its return to Japan.

Amami City Mayor Yasuda Sohei

奄美市民歌

～輝く未来へ～

作詞 保岡直樹
作曲 原田敬子

一 美わし海よ

香し森よ
きよらの郷

いのち燦めく
人と自然が
豊かな文化の
心うるおす
希望と笑顔に

和になつて
花ひらく
奄美市は
満ちるまち

二 チヂンの響き
風にシマ唄
ネリヤの海から
稀人もてなす
心を紡ぐ
恵みと平和を

八月踊り
夢を呼ぶ
訪れる
伝統よ
奄美市は
祈るまち

三 競う舟こぎ
虹のしぶきに
光をつかんで
大空仰ぐ
ともに肩よせ
輝く未来へ

みなぎる力
沸く港
の
伸びてゆく
ガジュマルよ
奄美市は
進むまち



◀左の二次元コードを読み取ると、奄美市民歌の紹介ページを表示します。(通信費は自己負担となりますのでご注意ください。)

祝！奄美群島日

令和5年（2023年）は、奄美群島が日本に復帰して70年の節目の年です。

戦後の奄美大島。あの時代に何があったのか、これからの未来を生きる子どもたちに何を伝え、残していくべきなのか。今を生きる私たち一人ひとりが考える機会になれば幸いです。

昭和16年に開戦した第二次世界大戦では、奄美群島の各地からも多くの方々が招集され、戦死を遂げています。昭和20年には奄美大島でも名瀬の街が大空襲を受け、市街地の90%余が消失する事態となりました（昭和20年4月20日）。また、昭和20年8月6日、広島に原子爆弾が投下された同じ日、赤木名が爆撃（空襲）を受け、防空壕に避難した住民の40名が犠牲となっています。

昭和20年（1945年）8月15日に戦争は終結しましたが、昭和21年2月2日、米軍政府により西諸島全域に対する軍政布告が公布されたことで、北緯30度以南の南西諸島は日本から行政分離され、奄美群島は米軍の統治下におかれま

した。これにより、日本の本土と奄美は自由な渡航が不可能となり、米軍からの配給物資や予算配当も不十分だったため、さまざまな物資が不足し、奄美の人々は困窮していました。そ

のため、北緯30度線に近い口之島や中之島を拠点とした密貿易が行われたり、島づたいに「密航」という手段を使う人々もいました。

昭和26（1951年）年1月、ダレス国務長官を団長とする対日講和使節団が来日し、日本政府との間で講和条約の交渉が始まります。

このころから日本復帰運動が全郡的な広がりを見せはじめ、奄美大島日本復帰協議会が発足し、郡島民（14歳以上）の99.8パーセントが署名したという署名活動や、合計で27回開催された集会活動、本土在住の奄美出身者たちによる陳情活動などが行われました。

昭和27年4月28日 対日講和条約（サンフランシスコ講和条約）が発効され、日本国の主権が回復しましたが、北緯29度以南の南西諸島は米軍政府の施政権下におかれた（痛恨の日）。同年8月1日、泉芳朗は高千穂神社で日本復帰を祈願した断食を5日間実施。この断食による復帰運動は、郡島民にも広がりを見せます。



昭和27年10月23日、重成鹿児島県知事が復帰関連の調査で来島し、到着の名瀬港をはじめ、奄美地方庁までの沿道は、「歓迎・重成知事」や「即時鹿児島県大島郡復活」等のプラカードを掲げた大勢の群衆で埋まりました。この歓迎の様子からも、島民がどれほど日本への復帰を望んでいたかが垣間見れます。

本復帰70周年



昭和28年8月8日、米国ダレス国務長官が「奄美群島を日本に返還する」旨の声明を発表、午後8時頃奄美の新聞社がその情報入手、号外ニュースとして各地に知れ渡ります。翌日の新聞は大きな見出しでこの「ダレス声明」を報道しました。8月9日の夜には、「ダレス声明感謝郡民大会」が名瀬小学校の校庭で開催され、1万5千人もの市民が提灯や感謝のプラカードや、のぼり旗等を持って詰めかけたとのことです。

そして、昭和28年（1953年）12月24日の夕方、日米間で奄美群島返還協定に調印が行われ、翌日の12月25日午前0時、ついに奄美群島は悲願の日本復帰を果たしました。

郡島民をはじめ、全国各地の奄美出身者達が一丸となった組織的な署名活動や、断食活動など、「非暴力」「無血」で達成した奄美群島の復帰運動は、世界的にも類例を見ない活動として高く評価されています。

2023年は、奄美群島日本復帰70周年。

この機会に奄美の歴史や当時の復帰運動について改めて見つめなおし、先人達の想いや一致団結する大切さ、そして平和の尊さを後世に語り継いでいきましょう。



【昭和28年8月9日 ダレス声明に感謝する郡民大会（名瀬小学校校庭）】

奄美群島日本復帰のあゆみ

昭和16年 (1941)	12月	第二次世界大戦（太平洋戦争）開戦	
昭和19年 (1944)	6月29日	「富山丸」が米軍の攻撃を受け沈没(徳之島沖)	
	8月22日	集団疎開船「対馬丸」が攻撃を受け沈没	
	10月	島尾敏雄「第18震洋隊」隊長として着任	
昭和20年 (1945)	4月	名瀬が空襲を受け、市街地の90%焼失	
	7月	ボツダム宣言	
	8月6日	赤木名の防空壕に爆撃、住民40名が犠牲に	
	8月15日	戦争が終結（終戦記念日）	
昭和21年 (1946)	2月2日	連合軍最高司令部GHQが日本の領域に関する指令を発表	
	「二・二宣言」 (連合国覚書宣言)		
	3月13日	大島支庁内に軍政府を設置	
	7月1日	名瀬市制施行（名瀬町から名瀬市となる）	
	10月3日	大島支庁廃止、「臨時北部南西諸島政庁」設置	
昭和23年 (1948)	6月19日	2名の教師が教育関連図書購入のために本土へ密航	
昭和24年 (1949)	4月29日	配給食料3倍値上げの方針発表	
	12月25日	昇曙夢「大奄美史」を刊行	
昭和25年 (1950)	6月	ダレス国務長官が来日、対日講和条約の動きが出てくる	
	1月11日	軍政府が食料3倍値上げを実施	
	7月1日	「北部南西諸島政府」設置	
	11月25日	「奄美群島政府」設置	
昭和26年 (1951)	1月	ダレス国務長官を団長とする対日講和使節団が来日	
	2月14日	対日講和条約の交渉開始を契機に「奄美大島日本復帰協議会」が発足、泉芳朗が議長に就任、署名活動や断食運動等を行い、復帰運動は一気に高まる 講和条約の草案の第3条に「奄美と沖縄を分離する」という条項が盛り込まれていることが判明すると、「条約第3条撤廃」を求める運動も展開	
	7月13日	第1回名瀬市民総決起大会（名瀬小にて）	
	7月19日	第1回日本復帰郡民総決起大会（〃）	
	9月9日	対日講和条約の調印	
	昭和27年 (1952)	4月28日	トカラの返還
		4月28日	対日講和条約（サンフランシスコ講和条約）が発効、連合国による日本国の占領統治が終了し、日本国の主権が回復 しかし、北緯29度以南の南西諸島は米軍政府の施政権におかれた
昭和28年 (1953)	8月8日	ダレス国務長官が韓国訪問の帰途に日本に立ち寄り、奄美群島を日本に返還する声明を発表	
	12月24日	奄美群島の日本復帰に関する日米協定が調印、奄美地方庁廃庁式	
	12月25日	奄美群島日本復帰が実現 「日本復帰記念の日」 奄美群島返還式、大島支庁開庁式、復帰祝賀式典、提灯行列などが行われる	
昭和29年 (1954)	1月16日	奄美大島日本復帰協議会解散式	
	6月	「奄美群島復興特別措置法」制定	

※過去の歴史概要については30・31ページをご覧ください。



【復帰運動の様子（高千穂神社）】



【昭和28年12月25日 奄美群島日本復帰祝賀飛行】



【復帰の喜びに沸く島民】

日本復帰記念の日のつどい

以前は毎年12月25日は泉芳朗先生を偲ぶ会が中心となって集会を開催していました。その後、日本復帰40周年（1993年）における金久中学校の演劇「潮鳴よ同胞の胸に響け」公演を機会に、同演劇公演OB会である「潮鳴会」（しゅなりかい）をはじめとして、市街地の小・中学生がこの催しに参加してきました。

そして、名瀬市市制施行50周年（1996年）を機会に、平成8年第2回名瀬市議会定例会において「日本復帰記念の

日の制定について」が議決・制定されたことにより、現在では民間と行政が一体となって12月25日のつどいを広く市民に呼びかけ、復帰運動の伝承に取り組んでいます。



日本復帰記念の日のつどいの様子（奄美市市民交流センター）



令和4年は小中学校各校における歴史教育の取組も紹介

相撲と奄美の歴史

奄美の歴史は相撲との関わりが深く、スポーツの側面と文化的な活動、双方の視点からひも解くことができます。

集落の豊年祭では一年の五穀豊穡を願い、幼児期から土俵に上がり取組が始まると、チジン（太鼓）の音とともに、ちびっ子力士の活躍に多くの集落民から声援が送られます。

また、小・中学生やアマチュア相撲界においては、九州・全国大会に多くの選手が輩出され優勝を飾るなど、顕著な成績を収めています。

県民体育大会相撲競技においては総合優勝 19 連覇。後に一時途絶えましたが、その後 21 連覇を達成するなど、相撲大国「奄美」を広く印象付けました。

2023 年、51 年ぶりに鹿児島で開催されるごしま国体（相撲競技）が「奄美群島日本復帰 70 周年」の冠称を付して開催されることは、大きな誇りであり、多くの島民に夢と希望を与え、奄美市の発展に向けて大きな励みとなっています。



市町村対抗相撲の様子（昭和27年）



南島雑話に描かれている嶋人相撲（名越左源太 著）

～奄美における相撲の歴史と文化～

1. 江戸時代～明治

奄美の相撲は、沖縄相撲のように組み合せて始まり、相手を投げ倒すものだったと考えられています。この頃、薩摩藩や本土から影響を受けた間切(行政)相撲や集落対抗の相撲が広がっていきました。

2. 大島相撲協会の設立・「協会相撲」の始まり

明治後期から大正初期にかけて、瀬戸内町西古見で金毘羅神社奉納相撲大会、笠利町で招魂祭相撲大会が始まりました。

大正9年には、大島相撲協会が設立されました。協会相撲の始まりです。前年に、海軍相撲二段の山下辰次郎（屋鈍出身）が満期除隊して帰郷していましたが、全島相撲大会で優勝して以降、十年にわたり横綱の座を守りました。



大島相撲協会発足の記念写真

3. 戦後・行政分離期間中

昭和21年、大島郡相撲協会主催で、第1回協会相撲が行われました。昭和6年に中止されたままだった協会相撲を再興するものでした。10月6日付の南日本新聞特報で「名瀬の御殿浜を会場にして団体戦と個人戦が行われ、団体戦の優勝は古仁屋、2位宇検、3位名瀬、個人戦の優勝は鳥入氏」と報じられています。協会相撲は、昭和30年の第3回大会まで行われました。

4. 「若人の祭典」での「全郡相撲大会」へ

昭和31年、奄美大島連合青年団が下部組織強化のために各地方で開催した若人の祭典の一つの行事として全郡相撲大会を開催しました。第1回開催地は沖永良部、第2回は徳之島、第3回は瀬戸内、第4回は名瀬、第5回は笠利で開かれました。

第3回の時に、相撲関係者の座談会が開かれ、「三本勝負の制度をとっているのは奄美だけで、一本勝負に改めるべきだ」との提言を受けて、昭和33年の古仁屋場所から一本勝負に変わりました。

5. 「奄美～沖縄親善相撲大会」の開催、県民体育大会・国体への出場

昭和40年代に入り、日本相撲協会の助言のもと、奄美全郡に相撲協会を設立する動きが見られるようになり、各地域で固定化した土俵作りが普及し始めます。

昭和43年から46年にかけて、沖縄の日本復帰運動の一環で奄美～沖縄親善相撲大会が開かれました。また、昭和46年には、鹿児島県県民体育大会の相撲競技に大島チームが初出場。昭和50年に初優勝し、以後19連勝を果たし、平成9年から令和元年にかけては21連覇を達成しています。

6. 集落の豊年相撲

このように、奄美ではスポーツとしての相撲だけでなく、文化的な風習として各集落で豊年相撲が行われるなど、相撲は地域に根ざした競技として親しまれています。



住用・見里集落

世界自然遺産の島 奄美

World Natural heritage Site, Amami Island

世界遺産とは、1972年（昭和47年）に採択された「世界遺産条約」に基づいて、国連教育科学文化機関（UNESCO）の「世界遺産一覧表リスト」に記載された遺産のことで、国家や民族を超えて人類が共有し、次世代に受け継いでいくべき価値をもつ遺産を対象としています。

世界遺産には、自然遺産、文化遺産、複合遺産の3種類があり、日本ではこれまで4件の世界自然遺産が登録されていましたが、令和3年7月26日に国内5件目として「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の登録が決定となりました。

'World Heritage' is a type of heritage (as defined by the World Heritage Convention adopted in 1972) that is registered on the World Heritage List, which was established by the United Nations Education, Scientific and Cultural Organization (UNESCO). This list registers heritage that is valuable to the extent that it deserves to be shared by humanity as a whole, crossing borders and ethnicity, and passed down to following generations.

There are three types of World Heritage Sites: Natural Sites, Cultural Sites, and Mixed Sites. Previously there have been four World Natural Heritage Sites registered in Japan until June 2011, and as of July 26th, 2021, there are five registrations, with the fifth being 'Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern Part of Okinawa Island, and Iriomote Island.'

世界自然遺産登録への歩み

平成15年5月	国の世界自然遺産候補地に関する検討会において、琉球諸島（当時）が候補地として選定される（この他、知床、小笠原諸島も選定）。
平成25年2月	政府がユネスコ世界遺産センターへ暫定リスト記載のための必要書類を提出
平成28年2月	資産名を「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」とし、暫定リスト記載のための必要書類を政府が再提出
平成29年2月	政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出
平成29年3月	奄美群島国立公園新規指定（国内34番目）
平成29年10月	ユネスコの諮問機関（IUCN：国際自然保護連合）による現地調査
平成30年5月	IUCNによる「記載延期」（登録延期）の勧告
平成30年6月	推薦を一旦取り下げし、最速で平成31年2月までの推薦書提出を目指すことで合意
平成30年11月	平成30年度の推薦案件が「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に決定
平成31年2月	政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書を再提出
令和元年10月	IUCNによる現地調査
令和2年4月	令和2年6月29日から7月9日にかけて開催予定だった世界遺産委員会の開催延期が決定
令和2年11月	開催が延期されていた世界遺産委員会を令和3年6月から7月にかけて開催されることが決定
令和3年3月	世界遺産委員会の日程が令和3年7月16日から7月31日（うち7月20日は除く）にオンラインで実施することを決定
令和3年5月10日	ユネスコの諮問機関（IUCN：国際自然保護連合）から「記載」（登録）の勧告を受ける
令和3年7月	令和3年7月16日から7月31日（うち7月20日は除く）にかけてオンラインで世界遺産委員会が開催され、世界自然遺産登録の可否が審議
令和3年7月26日	世界遺産委員会において登録が正式に決定

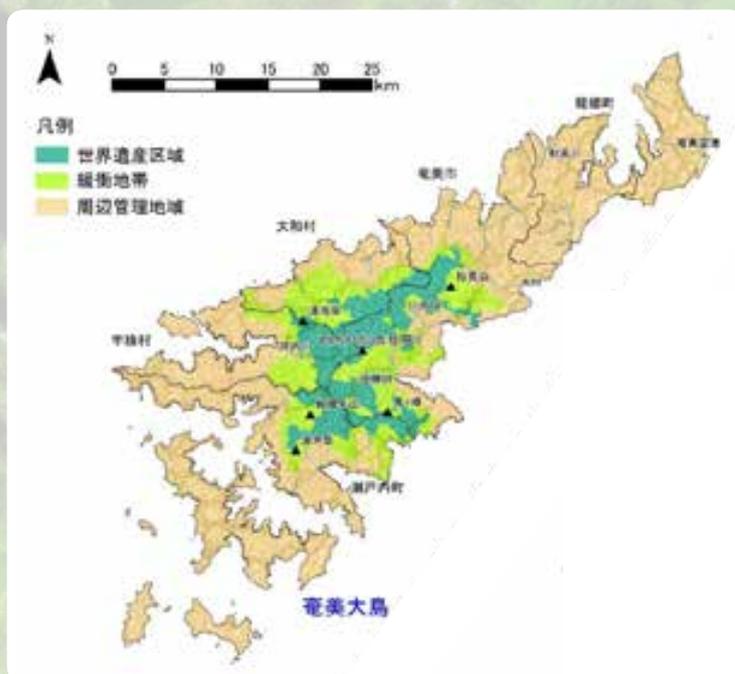
奄美大島の世界自然遺産区域

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は四島一括での世界自然遺産登録となり、このうち奄美大島の山中を中心に遺産区域が設定されています。

遺産区域及び緩衝地帯では、既に自然公園法により地域毎に応じて一定の行為に規制がかけられています。(許可制又は届出制) 国立公園の区域及び規制される行為内容等の詳細につきましては、奄美市ホームページや関連リンクをご確認ください。

▼下記ページの下部に関連リンクを掲載しています。

(世界自然遺産について / 奄美市ホームページ)





あやまる岬（笠利町）



アカウミガメの産卵

ハナビラクマノミ

大浜海浜公園（名瀬）

奄美群島国立公園

Amami Gunto National Park

奄美群島には、国内最大規模の亜熱帯照葉樹林とそこに生息・生育するアマミノクロウサギをはじめとした希少な動植物、世界的北限に位置するサンゴ礁、マングローブの森や干潟など、多様な自然環境が残されています。

これらの自然環境や、自然と人が共生する中で息づく地域の文化や生活風景が日本を代表するものであるという評価を受け、平成 29 年 3 月 7 日、奄美群島国立公園が誕生しました。

先人が残してくれた貴重な宝でもある自然（豊かな山や海）を守りながら、未来の子どもたちへ残し、持続的な観光振興にもつなげていきます。

The Amami Archipelago boasts a diverse natural environment; the largest subtropical-evergreen forest in Japan that is home to rare species like the Amami rabbit, as well as the northernmost coral reefs in the world, tidal flats, and even mangroves. These outstanding habitats, cultures and lifestyle of people coexisting with nature were recognized as representative of Japan, thus the Amami Gunto National Park was designated on March 7, 2017. We are dedicated to employing sustainable tourism efforts to preserve the unique nature left by our ancestors for the sake of future generations.

マングローブ（住用町）

土盛海岸（笠利町）

貴重な動植物の宝庫 奄美の森

The Forest of Amami — a Treasure Trove of Valuable Flora and Fauna

奄美の森には、世界的にも貴重な動植物が多数生育・生息しています。奄美市では、この希少な動植物を後世に継承していくことを目的として「奄美市希少野生動植物の保護に関する条例」を制定し、自然環境の保全に努めています。

Many incredibly valuable species of flora and fauna inhabit the forests of Amami. In order to convey the importance of this wildlife to following generations and ensure its preservation, Amami City has enacted various measures such as the Amami City Endangered Wildlife Protection Ordinance.



ケナガネズミ（絶滅危惧種・天然記念物）



オーストンオオアカゲラ（絶滅危惧種・天然記念物）



アカヒゲ（絶滅危惧種）



アマミイシカワガエル（絶滅危惧種・天然記念物）



アマミセイシカ（絶滅危惧種）



アマミノクロウサギ（絶滅危惧種・特別天然記念物）



ルリカケス（天然記念物）



ハブ

奄美市指定
天然記念物

合計 **6** 件

詳細は本紙
29 ページへ

奄美市
希少野生動植物種

合計 **53** 種

詳細は奄美市
ホームページへ

国・県指定
天然記念物

合計 **14** 件^(※)

国指定 10 件
県指定 4 件

国・県
希少野生動植物種

合計 **52** 種^(※)

国指定 26 種
県指定 26 種

※ 奄美関係分

フナギの滝（住用町）

▼自然環境について
（奄美市ホームページ）



奄美市を彩る 祭り・イベント

Festivals & Events

奄美市では、各地域の夏祭りである「奄美まつり（名瀬）」「三太郎祭り（住用）」「あやまる祭り（笠利）」をはじめ、イベントが盛りだくさん。その一部を写真で紹介します。

Amami City holds a variety of events and festivals throughout the year, such as the Amami Festival (Naze), the Santaro Festival (Sumiyo), and the Ayamaru Festival (Kasari). Please have a look at these photos of the festivities.



5市町村連携花火（写真は名瀬地区の花火）



奄美まつりの舟こぎ競争（名瀬）



奄美まつりの八月踊り（名瀬）



奄美まつりのパレード（名瀬）





袖の日（1月5日）



奄美まつり（名瀬）



あやまる祭りのナンゴ大会（笠利）



三太郎まつり（住用）



あやまる祭りの火舞（笠利）



やんご祭り

1. 健康で長寿を謳歌するまちづくり

Creating a City of Health & Longevity

奄美市では、結婚、妊娠、出産、子育てに関して切れ目ない支援体制を構築し、包括的な少子化対策を推進するとともに、子どもからお年寄りまで、また、障がいのある方々など、すべての市民が健康で安心して暮らすことができる環境づくりに取り組んでいます。

Amami City has established a continuous support system for marriage, pregnancy, childbirth and child care, and actively promotes comprehensive countermeasures to the falling birth rate of Japan. We are striving to create an environment where every citizen can live healthily with peace of mind, from children to the elderly and those with disabilities.





出生 (R4)
250人
1日当り 0.68人

死亡 (R4)
708人
1日当り 1.94人

結婚 (R4)
160組
1日当り 0.44組

離婚 (R4)
74組
1日当り 0.2組

高齢化率
(65歳以上割合)
33.85%
R5.3月時点

健康教室の様子



子ども医療費
助成実績 (R4)
138,824 千円
31,080 件
高校生までの
医療費助成

住民による交通安全見守り (住用町見里)



北高と高齢者の交流会



グラウンドゴルフ大会



ご長寿応援券※
発行数 (R3)
6,634 人
発行率 97.0%

要介護・
要支援認定者数
(R5年2月末)
2,862 人

介護保険
給付費総額
4,546 百万円
(R4年度実績)



福祉スポーツ大会

※ご長寿応援券…75歳以上の方などを対象に、バス・タクシーなどの交通機関や、運動・入浴施設等で利用できる補助券（ご長寿応援券）5千円分を年に1回発行し、元気な高齢者の増加等を図っています。

2. 観光立島を目指した 多様な産業連携のまちづくり

Creating a Tourism Destination Island through Cooperation with Industries

観光立島の実現及び各産業への波及効果の創出に向けた追い風をしっかりと捉えるため、「農業・観光／交流・情報」の奄振重点3分野を基軸とした産業の振興及び雇用の創出に力強く取り組み、相互連携による新たな価値の創出、産業経済の全体的な底上げ及び各産業の自立的成長を促しています。

In order to fully capitalize on the benefits of forming Amami into a tourism destination island that has created a ripple effect in various industries, Amami City is making strong efforts to create employment opportunities in our priority industries: mainly agriculture, tourism & exchange, and information. We are also promoting new values through mutual cooperation, the overall improvement of the industry economy, and the autonomous growth of each of those industries.



さとうきび畑（笠利町）

さとうきび
粗生産額 (R3)
611.1
百万円

肉用牛
粗生産額 (R3)
385.5 百万円

たんかん
粗生産額 (R3)
161.8
百万円

パッション
フルーツ
粗生産額 (R3)
73.8 百万円

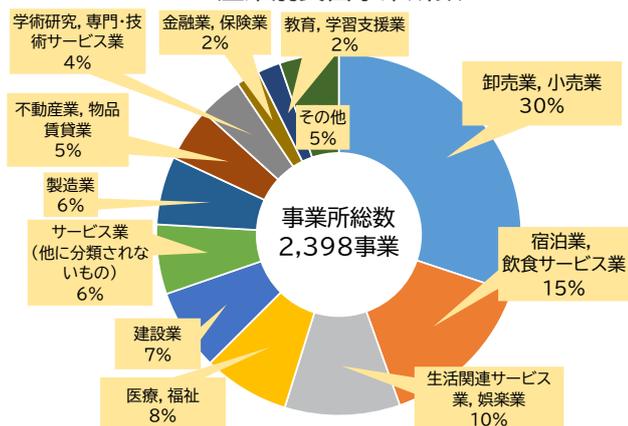


青果市場

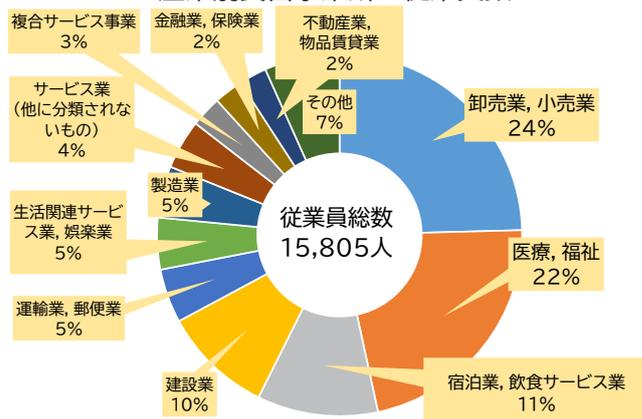


漁協

産業別民営事業所数



産業別民営事業所の従業員数



（H28 年度経済センサス活動調査より）



奄美市のおもな特産品

奄美大島には鶏飯などの郷土料理をはじめ、各種フルーツ、黒糖、それらを加工した食品、黒糖焼酎や本場奄美大島紬など、奄美ならではの土産・特産品が豊富にあります。ここに掲載したものはほんの一部。詳細はホームページ等でチェックしてみてくださいね。

▼お土産・特産品
(おまみ大島観光物産連盟)



(C) Amami City

重点施策

3. 自然に囲まれた 快適なくらしのまちづくり

Creating a Comfortable Home Surrounded by Nature

世界に誇る自然環境の中で暮らす市民一人ひとりが、関係する全ての人々と協力して、この素晴らしい自然環境を後世に引き継ぐことができるよう努めています。人と自然が共生し、市民が安心して快適な暮らしができる生活空間を創出するため、生活基盤・交通体系を整備するとともに、防災・防犯体制の強化に取り組んでいます。

Amami City strives to enable each citizen that resides amongst this world-class natural environment to cooperate with one another so as to preserve this nature for generations to come. In order to create a living space where people and nature can coexist, and citizens can live comfortably with peace of mind, we are working on strengthening our disaster prevention and crime prevention systems as well as improving infrastructure and transportation.

大浜海浜公園の夕日



環境省による自然保護啓発

野良猫
避妊・去勢実施数
2,837
[H25 年度～]

飼い猫
登録数：**2,086**
マイクロチップ
装着数：**1,555**
(装着率 74.54%)
[H23 年度～]

奄美市では、飼い猫の適正飼養を啓発し、人も猫も野生動物も住みやすい環境になるよう努めています。

猫適正飼養の啓発



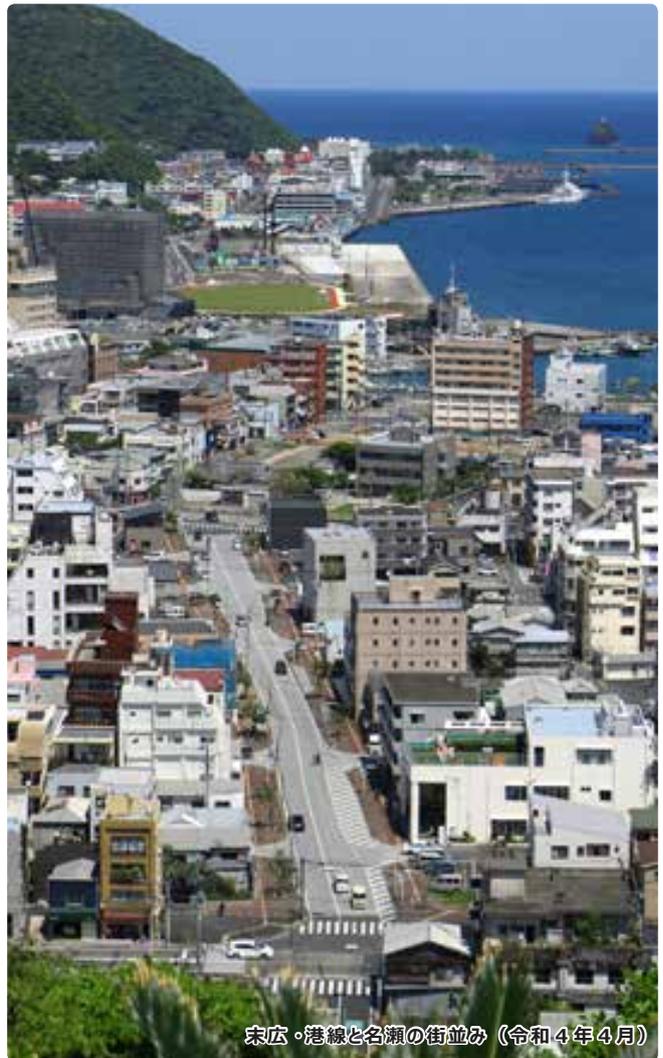
クリーンアップ大作戦



奄美市防災訓練



交通安全教室



宋広・港線と名瀬の街並み（令和4年4月）



名瀬湾



笠利町

4. 地域の中で教え、 学ぶ教育・文化のまちづくり

Creating a City of Education and Culture, Teaching and Learning in the Region

様々な課題に直面している教育環境の中、本市の教育理念である「地域に根ざしたふるさと教育～奄美の子どもたちを光に～」のもと、「子どもたちの情操育成事業」などとおして、「豊かな心」、「郷土を愛する心」、「健やかな体」を育むとともに、学校・家庭・地域・世代間が交流・連携した教育行政を推進しています。

While the educational environment faces various problems, based on our educational motto "hometown education rooted in the region - delight the children of Amami -", through "the growth support project of children emotion," we promote the educational policy with exchange and combination of schools, homes, regions and generations.



児童・生徒数
小学生 2,355人
中学生 1,203人
R4年4月

教員数
小学校 243人
中学校 155人
R4年4月

進学率
高校 99.7%
大学等 61.7%
R4年3月卒業者



合同運動会（住用町）



奄美市民体育祭



マングローブでカヌー体験 (住用小学校)



招魂祭相撲大会 (笠利)



三味線の練習 (市小中学校)



宇宿稲すり踊り (笠利町宇宿集落)



奄美市民文化祭

5. 魅力ある地域づくりに向けて

Creating an Attractive Region

奄美市には、世界に誇れる豊かな自然や多様な文化、お互いを支え合う「結の精神」が存在しています。これらを生かした魅力ある地域づくりを行うため、市民や企業、他自治体との連携をはじめ、国際交流など内外にわたる協働により、多様な知恵とノウハウを結集し、島嶼地域のモデルとなる地域づくりを推進しています。

Amami city has diverse world-class nature, cultures and "spirit of Yui (tie)" to support with each other.

To make the city attractive with these features, we promote the region to be an island model by various knowledges and know-hows through internal and external combination with citizen, industries and other local governments as well as international exchanges.



町内会・集落数
 名瀬：66町内会
 住用：14集落
 笠利：29集落
 R5年4月時点

NPO 法人
 認証法人数
 48 法人
 R5年4月時点

商店街まつり（あらしやげ会）



新川こどもまつり



奄美市進路ガイダンス（仕事紹介ブース）



女性が働きやすい環境づくりに向けた取組



ソウ踊り（住用町西仲間）



かしゃもち作り体験



移住支援の様子



ふるさと納税
寄附実績 (R4)
件数: **15,838** 件
金額: **283,473** 千円

ふるさと納税の推進



国際交流派遣事業の
派遣・受入実績 (累計)
派遣人数: **284** 名
受入人数: **190** 名
〔平成9年～〕



アメリカ・ナカドウチエ入市との交流



日本復帰記念の日(12月25日)

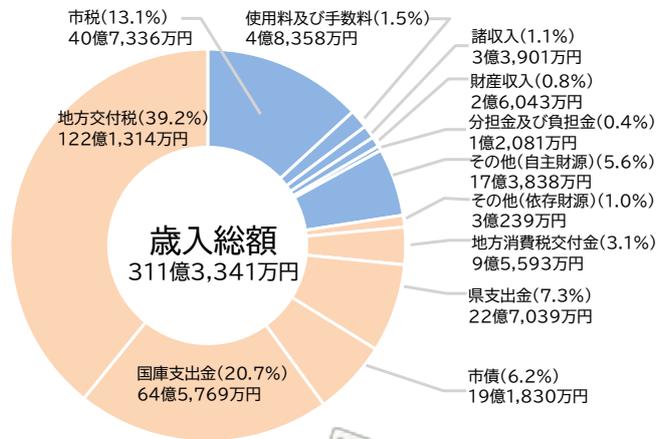
奄美市の財政状況 (令和5年度予算)

※構成比については、四捨五入の関係で合計等と一致しない場合があります。

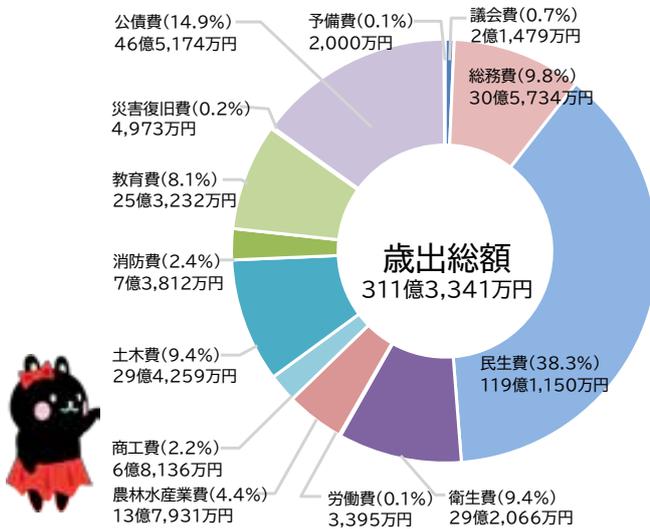
一般会計・特別会計当初予算

会計名	予算額	増減率(%)
一般会計	311億 3,341万円	△0.9
特別会計		
国民健康保険	51億 2,022万円	△5.2
国民健康保険直営診療施設勘定	3億 1,289万円	11.6
後期高齢者医療	5億 8,662万円	0.2
介護保険事業	53億 6,514万円	0.4
訪問看護	3,418万円	△11.3
と畜場	7億 8,348万円	181.4
交通災害共済	553万円	3.6
特別会計合計	122億 806万円	2.3
一般・特別会計合計	433億 4,146万円	0.0

一般会計予算 歳入



一般会計予算 歳出



自主財源 : 22.5%
依存財源 : 77.5%

総務費：住民登録、統計調査、課税徴収、選挙、庁舎の管理等、市の総括的な事務に使う経費
民生費：高齢者福祉や子どもの保育費、生活保護等、市民福祉全般の事務・事業に使う経費
衛生費：保健衛生やごみ処理等、健康で安全な生活のために使う経費
農林水産業費：農林業、水産業の振興のための経費
商工費：大島紬や観光振興等、商工業の振興のための経費
土木費：道路、港湾、市営住宅等の整備や維持管理に使う経費
消防費：消防本部や消防団等の消防・救急活動のための経費
教育費：小中学校の運営・整備や公民館活動等、教育全般の事務・事業に使う経費
公債費：過去に借り入れた債務の支払にあてる経費

水道事業会計当初予算

1 収益的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
営業収益	9億 4,776万円	△0.6
営業外収益	2億 8,009万円	0.6
合計	12億 2,785万円	△0.3

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
営業費用	11億 6,374万円	△0.4
営業外費用	4,299万円	1.6
予備費	500万円	0.0
合計	12億 1,173万円	△0.3

2 資本的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
企業債	2億 8,520万円	△10.7
工事負担金	900万円	皆増
国庫補助金	3,000万円	皆増
他会計出資金	6,310万円	△71.4
合計	3億 8,730万円	△28.2

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
建設改良費	6億 6,446万円	△10.7
企業債償還金	1億 9,775万円	7.0
投資	3億 0万円	50.0
合計	11億 6,221万円	3.0

下水道事業会計当初予算

1 収益的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
営業収益	12億 2,885万円	121.9
営業外収益	5億 1,648万円	△54.7
合計	17億 4,533万円	3.1

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
営業費用	13億 8,736万円	△0.2
営業外費用	6,693万円	△18.7
特別損失	6万円	皆増
予備費	80万円	0.0
合計	14億 5,515万円	△1.2

2 資本的収入及び支出 (収入)

区分	予算額	増減率(%)
企業債	4億 9,640万円	△12.3
補助金	3億 3,200万円	8.5
負担金等	666万円	△45.5
合計	8億 3,506万円	△5.6

(支出)

区分	予算額	増減率(%)
建設改良費	6億 7,008万円	△0.3
企業債償還金	8億 9,880万円	△2.8
合計	15億 6,888万円	△1.7

奄美市のあゆみ

平成18年3月20日の奄美市誕生から、これまでのあゆみを写真と年表で振り返ります。



平成18年
奄美市誕生
2006年

▼平成18年(2006年)

- 3/20 合併により「奄美市」誕生 ①
- 6月 大浜「快水浴場百選」(環境省)に選ばれる
- 7月 皆既日食音楽祭 ②
- 8月 西宮市と友好都市提携
- 12月 「タラソ奄美の竜宮」オープン ③

▼平成19年(2007年)

- 5月 黒糖焼酎の日制定、あまみエフエム開局 ④
- 6月 NHK のど自慢 ⑤
- 12月 「旧安田家住宅主屋」・「園家住宅主屋」が国登録有形文化財となる
一集落1ブランド初認定

平成20年
2008年

平成20年(2008年)

- 4月 有良汚泥再生処理センター竣工 ⑥
- 8月 地上デジタル放送本放送開始
- 10月 名瀬港臨港道路「長浜本線」開通

▼平成21年(2009年)

- 2月 第1回奄美桜マラソン大会 ⑦
- 赤木名城跡が国指定文化財となる
- 4月 鹿児島県立奄美図書館開館
- 7月 皆既日食 ⑧
- 12月 朝山市長就任(12月1日) ⑨

▼平成22年(2010年)

- 4月 「あった結い交流館」落成
- 7月 市民憲章の碑除幕式
- 8月 小湊アガネク遺跡が国指定文化財となる
- 10月 奄美地方豪雨災害発生(10月20日) ▼



- 11月 大やんご祭り(やんご生誕100周年祭)

▼平成23年(2011年)

- 6月 空想科学株式会社との立地協定
- 9月 奄美大島北部豪雨災害(9月25日)

▼平成24年(2012年)

- 4月 ICTプラザがさり開所式
AiAiひろば供用開始 ⑩
- 5月 日本各地で金環日食、奄美では部分日食

平成25年
2013年

平成25年(2013年) 日本復帰60周年

- 1月 ご当地ナンバープレート(原付・自動二輪)交付
- 3月 太陽光発電所「あまみティダ発電所」完成
- 4月 公式キャラクター「コクトくん」に辞令交付
「奄美市ひと・もの交流プラザ」オープン
- 11月 奄美群島日本復帰60周年記念式典
- 12月 朝山市長再選(2期目)
奄美群島日本復帰60周年「復帰の灯」 ⑪

▼平成26年(2014年)

- 1月 大島高校野球部が春の甲子園出場決定 ⑫
- 3月 住用・笠利総合支所 新庁舎開庁式 ⑬
- 5月 名瀬港に大型客船「コスダビクトリア」初寄港
- 6月 県立大島病院救命救急センター開所
- 7月 バニアエア奄美-成田線就航 ⑭
- 11月 ご当地「奄美」ナンバー(自動車)スタート

▼平成27年(2015年)

- 3月 国道58号網野子バイパス開通
- 5月 「カレドニアンスカイ」名瀬港に初寄港
- 9月 奄美市市政施行10周年記念切手販売
- 10月 国民文化祭かごしま2015(10/31~11/8)



平成30年
2018年

元号が
「令和」へ
2019年

世界自然
遺産登録
2021年

▼平成 28 年 (2016 年) 奄美市施行 10 周年

- 1 月 名瀬で 115 年ぶりとなる雪が観測される
- 3 月 奄美市市制 10 周年記念式典 **15**
奄美市名瀬中央公民館閉館
- 5 月 本庁舎の一部が港町仮庁舎へ移転
- 8 月 小湊フガネク遺跡出土品が国指定重要文化財となる
- 12 月 「奄美ドクターヘリ」 運航開始

▼平成 29 年 (2017 年)

- 2 月 NHK 総合プラタモリ 奄美大島で収録
- 3 月 奄美群島国立公園誕生
パニウ・エア奄美 - 関西線就航
- 7 月 島尾敏雄生誕 100 周年記念祭
- 9 月 あやまる展望デッキ完成
- 12 月 朝山市長再選 (3 期目)

▼平成 30 年 (2018 年) 日本復帰 65 周年

- 2 月 海岸に漂着油が確認され回収作業が行われる
- 3 月 フェリー波之上奄美 - 屋久島航路就航
- 5 月 大河ドラマ「西郷どん」で奄美大島が舞台に
- 6 月 都市計画道路「未広港線」供用開始
- 7 月 奄美空港ターミナルビル増改築工事落成式
- 8 月 スカイマーク奄美大島 - 鹿児島線就航
奄美市給食センター開所式
- 12 月 日本復帰 65 周年日本復帰記念の日のつどい **16**

▼平成 31 年 (令和元年 2019 年)

- 2 月 奄美 de アート国際フェスティバル **17**
奄美市役所新庁舎開庁式 **18**
- 3 月 陸上自衛隊奄美駐屯地開設・ブルーインパルス飛行 **19**
- 4 月 新元号「令和」発表 (5/1 ~ 元号が令和へ)
- 8/18 第 58 回全国教職員相撲選手権大会
- 8/24 奄美博物館リニューアルオープン **20**
- 10/1 ピーチ・アビエーション運航開始
- 10/31 大型客船「ウエステルダム」名瀬港に初寄港

▼令和 2 年 (2020 年)

- 1 月 住民票等コンビニ交付開始
- 2/22-23 危機的な状況にある言語・方言サミット
- 9 月 台風 10 号が接近 多くの住民が避難
【コロナ禍の影響により、オリンピック聖火リレー、各地区の夏祭り、かごしま国体、市民文化祭、市民体育祭など多くの行事が中止または延期に】

▼令和 3 年 (2021 年)

- 3/20 奄美市合併 15 周年
合併 15 周年記念 NHK のど自慢 **21**
- 4/27 オリンピック聖火リレー開催 **22**
- 5/10 世界自然遺産の登録勧告を受ける
- 7/26 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」
の世界自然遺産登録が正式に決定 **23**
- 7-8 月 東京オリンピック開催
- 9 月 本庁舎グランドオープン **24**
- 10/2 奄美市市民交流センター落成式
- 10/2 奄美市市政 15 周年記念式典 **25**
- 10/23 世界自然遺産登録記念式典
・世界自然遺産登録記念祝賀イベント **26**
- 10/23 朝日中学校吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールで
銀賞受賞 (11/6 報告演奏会 **27**)
- 11/27 5 市町村連携花火
- 12/1 安田市長就任 **28**



29

30

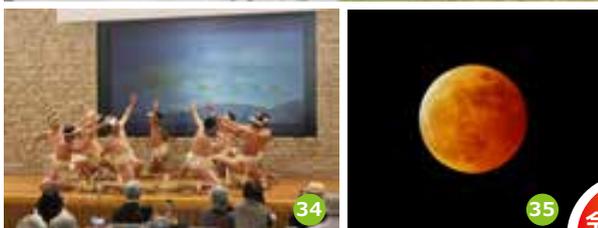


31

32



33



34

35



36

37



38

39

▼令和4年（2022年）

- 1/5 漁協・青果市場初セリ（2年ぶり）
- 1/6 新型コロナ感染拡大により
「奄美大島コロナ警戒レベル」5へ引き上げ
- 1/28 大島高校甲子園出場決定 **29**
- 3/19 あやまる岬サイクル列車リニューアル **30**
- 3/23 大島高校野球部選抜大会出場(VS.明秀日立〔茨城〕)
- 3/24 海洋展示館リニューアルオープン **31**
- 3/27 宮古崎トンネル開通式
- 4/4 地域おこし協力隊就任
- 5月 第63回奄美群島市町村議会議員大会（3年ぶり開催）
- 6/19 大島支部消防操法大会（奄美市で22年ぶり開催） **32**
- 7/26 世界遺産センターオープン **33**
- 7/26 世界自然遺産登録1周年記念イベント
- 8/1 諏訪副市長初登庁
- 8/3 新型コロナ感染拡大により
「奄美大島コロナ警戒レベル」再び5へ引き上げ
- 8/4 新型コロナ感染拡大により舟こぎ競争中止
- 8/5 奄美市まつり「花火大会」（3年ぶり）
※規模縮小のためパレード・八月踊りは開催なし
- 9/19 台風14号接近
- 9/20 奄美大島食肉センター新築工事起工式
- 10/8・9 県体バドミントン競技開催
- 10/16 県民文化フェスタ in あまみ 2022（奄美群島で初開催）
- 10/30 奄美パーク開園20周年 **34**
- 11/8 やんご祭り
- 11/8 皆既月食・天王星食 **35**
- 12/25 日本復帰記念の日のつどい（復帰69周年）

令和5年
2023年

令和5年（2023年）日本復帰70周年

- 1/21 鹿児島大学防災シンポジウム
- 2/5 スポーツイベント「つなGO奄美大島」開催 **36**
- 2/5 地女連名瀬支部結成100周年記念式典 **37**
- 2/5 自衛隊奄美駐屯地4周年記念イベント **38**
- 2/10 名瀬小学校創立150周年記念式典 **39**
- 2/25 ほこらしゃ奄美音楽祭
- 3/11 世界自然遺産登録一周年記念シンポジウム



奄美の歴史概要

奄美群島の歴史は、複雑な歩みをたどります。15世紀中頃から「琉球国」（現在の沖縄県）の統治下に入り、慶長14年(1609)には薩摩藩が琉球国に侵攻した後は、「薩摩藩」（現在の鹿児島県）の統治下となります。その際、奄美群島は琉球国領のまま、実際には琉球国から切り離されて薩摩藩の直接支配が行われるという複雑な行政統治が行われています。

明治元年(1866)から「鹿児島県」となり、近代国家の一員として編成されていきますが、太平洋戦争の敗戦後は「米軍占領政府」の統治下となり、8年間にわたり日本から切り離され、行政分離された苦難の歴史も経験してきました。

先史時代（奄美世）

奄美群島の先史時代は、旧石器時代遺跡が奄美市笠利町から発見されていて、約3万年前から人びとが暮らしていた事実がわかります。



喜子川遺跡
(奄美市笠利町)の礫群

約10,000年前に氷河期（最終氷期）が終わると、気候は温暖化しはじめ、約7,000年前から縄文時代の遺跡が認められるようになります。

3,000年前頃から、集落というものが形成されるようになり、宇宿貝塚・宇宿小学校遺跡（奄美市笠利町）、城サモト遺跡（奄美市住用町）、塔原遺跡（天城町）、住吉貝塚（知名町）等、奄美群島の各地で集落遺跡が確認されています。

弥生時代に波及した稲作農耕文化は、奄美・沖縄地域には定着せず、本格的に稲作農耕が開始されるのは平安時代後半頃頃からとなります。ゴホウラやイモガイなどの南海産大型貝類が交易品として運び出され、本土地域の政治的権力者たちが身に付ける装身具の材料として使われました。

『日本書紀』、『続日本紀』には、7～8世紀にかけて、律令国家による地方統治政策が、薩南諸島を中心に展開されていた様子が記載されています。日本歴史の舞台に、奄美群島が鮮やかに登場したのです。

昭和59年(1984)、福岡県大宰府跡の発掘調査において、「奄美嶋」と記された木簡が発見されました。「奄美嶋」とは、奄美大島であると考えられています。一緒に沖永良部島とも推定されている「伊藍嶋」と記された木簡も出土しています。いずれも8世紀前半に位置づけられるものです。大宰府へ貢納された南方物産に付けられた荷札かもしれません。



「奄美嶋」木簡複製

当時、奄美群島をはじめとする南西諸島は、夜光貝や赤木など南方物産の産地として



国重要文化財・夜光貝匙
(小湊フワガネク遺跡)

知られていました。古墳時代終末から、奄美大島では小湊フワガネク遺跡（奄美市名瀬）、土盛マツノト遺跡（奄美市笠利町）など、夜光貝の貝殻を加工のために集積させた「夜光貝大量出土遺跡」と呼ばれる遺跡が営まれ、交易活動が行われていました。

中世（アジ世）

9～10世紀には文献史料から姿を消していた南西諸島の島々は、10世紀終末、『日本紀略』という史料において「キカイガシマ」としてふたたび姿を現します。以後、13世紀頃まで文献史料に散見されるようになります。

その11～13世紀頃には、喜界島には九州から南漸してきた人びとが築いた「城久遺跡」が、徳之島には窯業生産遺跡の「カムイヤキ陶器窯跡」が営まれました。この時代に農耕文化がもたらされ、鉄器文化も広く波及しはじめました。



カムイヤキ（奄美博物館所蔵）

11世紀代になると、徳之島で生産されたカムイヤキ（陶器）が、農耕文化と鉄器文化を伴いながら沖縄諸島、さらには先島諸島まで波及し、琉球史におけるいわゆる「グスク時代」の幕開けとなりました。

琉球国統治時代（那覇世）

沖縄島で、13世紀後半から独自の琉元貿易が開始されると、14世紀代には各地に城塞型グスクが出現し、その政治的社會は北山・中山・南山の三勢力（三山）に成長していきました。明が成立すると三山による朝貢貿易が開始され、その直後に「琉球国」が誕生しました。

琉球国は、奄美群島にたびたび軍事侵攻を行い、15世紀中頃から奄美群島を統治下に加えしました。その後、文明9年(1477)から第二尚氏王統に代わり、中央集権体制が確立されてくると、琉球国の行政機構が奄美群島にも適用されるようになります。

「間切」と呼ばれる行政単位が導入され、間切統治の役人のほか、ノロとよばれる公的の神女に重要な職務が与えられていました。奄美群島では、各集落単位でノロが配置されていて、各島にはノロを統括する「大あむ」と呼ばれる神女が二人配置されていたと考えられています。



大熊集落のノロ祭祀



ノロ祭祀に使われる神扇

薩摩藩統治時代（大和世）

江戸時代開始直後の慶長14年（1609）、薩摩藩は琉球国へ軍事侵攻して、異国である琉球国を支配下に置きました。奄美群島は琉球国から割譲されましたが、対外的には琉球国領を装いながら薩摩藩が直接統治しました。そうした行政制度の変化に伴い、ノロの継承も琉球国から切り離され、特定の家系に代々継承されて守られるようになりました。

奄美群島は、近世国家体制（幕藩体制）に組み込まれていきます。琉球国の間切制度は引き継がれましたが、元和9年（1623）の「大島置目条々」発令以後、その行政機構は変更されていきます。最初は米による税収確保が行われていましたが、延享4年（1747）の「換糖上納令」（米を黒糖に換算して納める）発令以後は、稲作からサトウキビ栽培へ転換が進行し、やがてプランテーション化が奄美群島全域で展開していくようになりました。薩摩藩の財政再建に際し、奄美群島の黒糖政策が重要施策となり、「黒糖地獄」と呼ばれる時代が到来したのです。

幕末には、遠島刑を命じられた薩摩藩の上級藩士・名越左源太が名瀬間切の小宿村に暮らし、奄美大島の様子を挿絵入りで詳細に記録した『南島雑話』をまとめています。



『南島雑話』

近代（明治・大正・昭和時代）

享和元年（1801）に仮屋が名瀬の伊津部に移転されると、官公庁の変遷に伴いながら寄留商人を中心に名瀬の街の形成が始まります。明治4年（1871）の廃藩置県後、薩摩藩は「鹿児島県」となり、明治8年（1875）に名瀬の伊津部仮屋が廃止、新たに「大島大支庁」が名瀬金久村に設置され、奄美群島各島にも支庁が設置されました。

明治時代も、砂糖利権は鹿児島県に独占された状態が続いていました。その独占売買のため、「大島商社」「南島興産商社」などが組織され、島民は債務増大に苦しんできました。しかし、サトウキビ農業が経済的に厳しいからこそ、人びとは、大島紬、カツオ漁、林業、百合根などの新しい産業の開発に取り組み、活路を見出していました。

名瀬の街は砂糖交易で繁栄し、アジア海域における拠点の港湾都市のひとつとして飛躍的發展を遂げていきました。鹿児島県下第2位の規模を誇る「ヤング（屋仁川）」の飲食店街も、この時期から営まれてきた100年以上の歴史があります。

明治時代終末には、早稲田大学商学科を卒業した青年実業家・林為良（徳之島花徳出身）が、「大島電気株式会社」を設立して、奄美群島における電化が始まります。住用川で水力発電事業にも取り組み、大正8年（1919）には、発電所・ダムが完成し、電力供給が開始されました。

奄美の歴史に関連する主な年表

先史時代	<ul style="list-style-type: none"> ○約 30,000 年前、人類活動が始まる ○7,000 年前頃から縄文時代遺跡 ○約 2,500 年頃から定住的な集落形成 ○弥生時代遺跡が営まれるが、稲作農耕文化は定着しない ○小湊フワガネク遺跡の「夜光貝大量出土遺跡」、夜光貝匙等の貝製品生産 ○律令国家の地方統治政策が波及、南島人朝貢 ○大宰府跡から「奄美嶋」木簡出土
中世	<ul style="list-style-type: none"> ○九州西海岸で奄美島人襲撃事件 ○夜光貝の国産「螺鈿」が最盛期 ○平泉の中尊寺金色堂（12 世紀）建立 ○城久遺跡（喜界町）が最盛期 ○徳之島で窯業生産（カムイヤキ陶器窯跡）が行われる ○11 世紀代から稲作農耕が開始 ○赤木名城跡などの城郭遺跡が構築
琉球国統治時代	<ul style="list-style-type: none"> ○尚巴志が三山を統一、琉球国が誕生 ○尚徳王、喜界島に侵攻 ○15 世紀中頃、奄美群島は琉球国の統治下に ○伊是名島生まれの尚円による第二尚氏王統始まる
薩摩藩統治時代	<ul style="list-style-type: none"> ○慶長 14 年（1609）、薩摩藩が琉球国に侵攻 ○奄美群島は琉球国から分離、薩摩藩の直轄領となる ○笠間間切の笠間村に仮屋設置 ○寛永 12 年（1635）頃、名瀬間切の大熊村に仮屋移転 ○笠間間切の赤木名村に仮屋移転、以後、大熊村と赤木名村を交互移転する ○「大島置目之条々」定められる ○「換糖上納令」発令 ○正徳 3 年（1713）、第一次定式買入制度 ○安永 6 年（1777）、第一次惣買入制度 ○天明 7 年（1787）、第二次定式買入制度 ○文政 13 年（1830）、第二次惣買入制度 ○名瀬間切の伊津部村に仮屋移転 ○名越左源太、名瀬間切小宿村に暮らす ○ペリー、浦賀に来航 ○薩摩藩、「大島古図」作成 ○西郷隆盛、名瀬間切の龍郷村に潜伏
近代	<ul style="list-style-type: none"> ○薩摩藩「大島計画」で奄美大島 4 箇所に白糖製造工場を建設、稼働 ○「廃藩置県」で奄美群島は鹿児島県に ○奄美群島「地租改正」は明治 11 年（1878）から実施 ○砂糖専売の特殊会社「大島商社」設立 ○砂糖自由売買運動（勝手世騒動） ○明治 11 年（1878）、大島商社が解体 ○明治 21 年（1888）、「南島興産商社」設立 ○高利負債償却、農事改良、倹約の「三方法運動」で砂糖専売に対抗 ○笹森儀助が大島島司として就任 ○林為良が「大島電気株式会社」設立 ○大正8年（1919）、大島電気株式会社による住用川の水力発電所とダム完成 ○昭和 2 年（1927）、昭和天皇行幸
米軍占領統治時代	5 ページを参照

市章・市木・市花等

※「奄美市民歌」は3ページに掲載しています。

奄美市の市章

奄美市のインシヤルであるAをモチーフとし、奄美の豊かな自然と共生する市民の姿を表現しました。赤い丸は奄美の恵みの太陽を表しています。



市民憲章（平成19年3月20日制定）

奄美市民憲章

誇りある奄美市民の幸福と前進のために

- わたしたち奄美市民は、
きまりを守り住みよいまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
助け合いぬくもりのあるまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
健康で明るいまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
教養を高め伸びゆくまちをつくります。
- わたしたち奄美市民は、
よく働き豊かなまちをつくります。

奄美市公式キャラクター

奄美市の公式キャラクターは、アマミノクロウサギの妖精、コクトくんです。普段は交通安全と野生動植物の保護を訴えながら、お友達のロビンちゃんといっしょに奄美の山で静かに暮らしています。コクトくんの好物は黒糖を使ったスイーツ、黒糖焼酎。趣味は三味線です。



奄美市の市木・市花

（平成19年3月20日制定）

●リュウキュウマツ（市木）

琉球列島の固有種です。大木は奄美に多く、市内には琉球列島屈指の大木もあります。奄美の山の黒っぽい緑を形成している木で、木工芸品なども近年注目されています。



●ガジュマル（市木）

木登りやブランコなど子どもの遊び場として、また木陰は住民の憩いの場として古くから市民に親しみのある木です。奄美の民話に出てくる「ケンムン」の棲家とも言われ、奄美の象徴的な木でもあります。



●シャリンバイ（市花）

在来種で、大島紬の染料にも使われるなど、伝統産業を支えてきた花です。街路にも植栽され、身近に市民に親しまれています。



●ハイビスカス（市花）

ハイビスカスとはフヨウ属の総称です。一般的にはブッソウゲのイメージが市民の間で定着しています。



●ヒカゲヘゴ（その他植物）

花木のほかに、特殊な植物を市のシンボルに加えることにより、奄美市の植物の多様性、豊富さを内外に示すことができます。ヒカゲヘゴは、古代のジャングルを連想させ、奄美の亜熱帯の深い森を最もよく象徴している植物です。



姉妹都市・友好都市

●〈姉妹都市〉アメリカテキサス州ナカドゥチェス市 / City of Nacogdoches

ナカドゥチェス市と旧名瀬市は、ステファン・F オースチン大学と奄美看護福祉専門学校が姉妹校盟約を結ぶのを契機に、両市民が教育・文化・経済等幅広い分野の交流を深めるため、平成7年4月26日に姉妹都市盟約を締結しました。平成17年4月には、市町村合併後の奄美市においても姉妹都市盟約を継続する調印を交わし、現在に至っています。

●〈友好都市〉兵庫県西宮市

西宮市と旧名瀬市の交流は、故キクチ武正医師たちが医療過疎に悩む奄美の島々を昭和30年から10年余にわたって巡回し、診療奉仕活動を行ったのがきっかけになっています。その後、中学生の交歓行事などで友好気運が高まり、昭和56年10月31日、友好都市提携調印を行いました。奄美市誕生後の平成18年8月に、新市として友好都市提携調印を行い、現在に至っています。

●〈友好都市〉大阪府豊中市

関西には奄美出身者も多く、大阪国際空港は便利で昔から馴染みも深いことから、観光PRや物産展開催等の相互交流は両市にとって大きなメリットになるため、平成24年2月6日に「空港で結ぶ友好都市連携に関する協定」を締結しました。

●〈交流事業〉長野県小川村

平成10年から小学6年生を対象に奄美市住用町（旧住用村）と長野県小川村の交流が始まりました。この事業は、自然環境・生活環境の異なる地域で体験活動や文化の交流を通して、生活様式・習慣・文化等の違いや良さを見直し、相互のまちの発展を担う青少年を育成することを目的に行われています。

●〈交流事業〉群馬県みなかみ町

群馬県みなかみ町と旧笠利町は、平成13年度から青少年の交流事業を行っています。夏の時期には、みなかみ町の小学生を受け入れ、冬の時期には、笠利町の小学生を派遣しています。自然環境・生活環境の異なる地域で、体験活動を通して、生活様式、習慣、文化等の違いや良さを見直し、相互のまちの発展を担う青少年の育成に貢献しています。

指定文化財一覧

国指定文化財（奄美市関係分）

●天然記念物	所在地	指定年月日
アマミノクロウサギ（特）	奄美大島・徳之島	S38.7.4
ルリカケス	奄美大島・加計呂麻島・請島	T10.3.3
神屋・湯湾岳	住用町・宇検村・大和村	S43.11.8
アカヒゲ	奄美大島・徳之島	S45.1.23
オカヤドカリ	南西諸島	S45.11.12
オトトラツグミ	奄美大島	S46.5.19
カラスバト	鹿児島県	S46.5.19
オーstonオオアカガラ	奄美大島	S46.5.19
トゲネズミ（アマミトゲネズミ）	奄美大島・徳之島	S47.5.15
ケナガネズミ	奄美大島・徳之島	S47.5.15

●史跡

宇宿貝塚	笠利町宇宿	S61.10.7
赤木名城跡	笠利町里	H21.2.12
小湊フガネク遺跡	名瀬小湊	H22.8.5

●重要文化財（美術工芸品（考古資料））

小湊フガネク遺跡出土品	奄美市立奄美博物館	H28.8.17
-------------	-----------	----------

●重要文化財（建造物）

泉家住宅	笠利町宇宿	H6.7.12
------	-------	---------

●登録有形文化財

旧安田家住宅主屋	笠利町用安	H19.12.5
園家住宅主屋	笠利町用安	H19.12.5

県指定文化財（奄美市関係分）

●天然記念物

イシカワガエル	奄美大島	H15.4.22
イボイモリ	奄美大島・徳之島	H15.4.22
オットンガエル	奄美大島 及び加計呂麻島	H17.4.19
アマミハナサキガエル	奄美大島・徳之島	H23.4.19

●史跡

城間トフル墓群	笠利町万屋(城間集落)	H5.3.24
---------	-------------	---------

●無形民俗文化財

節田マンカイ	笠利町節田	H20.4.22
佐仁の八月踊り	笠利町佐仁	H23.4.19

●有形民俗文化財

奄美のノ関係資料	笠利町・名瀬・宇検村・瀬戸内町・大和村	H15.4.22 (大和村追加指定：H18.4.21)
----------	---------------------	--------------------------------

奄美市指定文化財一覧

●名瀬地区 13件	所在地	指定年月日	種別
根瀬部地区自生タイオンヤマトツジ	名瀬根瀬部	S45.3.3	天然記念物
有盛神社の石造弁才天像	名瀬浦上	S47.3.2	有形文化財（彫刻）
有盛神社境内の森林	名瀬浦上	S47.3.2	天然記念物
小湊厳島神社の木造弁才天坐像及び黒漆塗り厨子	名瀬小湊	S47.3.2	有形文化財（彫刻）
小湊厳島神社の石灯籠及び手水鉢	名瀬小湊	S47.3.2	有形民俗文化財
朝仁貝塚	名瀬朝仁町	S45.3.3	史跡
小湊フガネク遺跡群	名瀬小湊	H14.3.22	史跡
名瀬小学校敷地内の石段	名瀬永田町	H25.10.28	史跡
有良・厳島神社の石祠及び神体恵比寿像	名瀬有良	S59.11.20	有形文化財（彫刻）
浦上ノ祭祀具	奄美市立奄美博物館	S60.11.30	有形民俗文化財
南島雑話（写本5冊）	奄美市立奄美博物館	H3.5.22	有形文化財（古文書）
大熊・竜王神社			
観音堂石造観音坐像及び石造弁才天坐像	名瀬大熊	H10.9.30	有形文化財（彫刻）
奄美博物館所蔵・奄美群島日本復帰関係資料	奄美市立奄美博物館	H16.5.22	有形文化財（歴史）
●住用地区 6件			
マンガローブ群落	住用町石原	H4.9.1	天然記念物
モダ目生地	住用町東仲間	H4.9.1	天然記念物
サモト遺跡	住用町城	H4.9.1	史跡
石像	住用町西仲間	S47.8.20	有形文化財（彫刻）
コメツキ踊り	住用町市	H4.9.1	無形民俗文化財
ソオ踊り	住用町西仲間	H4.9.1	無形民俗文化財
●笠利地区 20件			
土浜ヤーヤ遺跡	笠利町土浜	S46.9.1	史跡
宇宿高又遺跡	笠利町宇宿	S51.12.25	史跡
アナバトフル	笠利町手花部	S46.9.1	史跡
辺留城古墓	笠利町笠利	S46.9.1	史跡
笠利大島奉行所跡	笠利町笠利	S46.9.1	史跡
津代古戦場跡	笠利町手花部	S46.9.1	史跡
大島仮屋跡	笠利町里	S46.9.1	史跡
赤木名観音寺跡	笠利町里	S46.9.1	史跡
アマンデー	笠利町節田	S46.9.1	名勝
園家の庭園	笠利町用安	S46.9.1	名勝
手花部メヒルギ群落	笠利町手花部	S46.9.1	天然記念物
土盛子だき石	笠利町宇宿(土盛集落)	S46.9.1	天然記念物
大島代官記写本	笠利町外金久	S46.9.1	有形文化財（古文書）
永代大雑書	笠利町里	S46.9.1	有形文化財（古文書）
笠利村教育資料	笠利町笠利	S46.9.1	有形文化財（歴史）
前島友庵の墓地	笠利町里	S46.9.1	有形文化財（歴史）
手花部の墓石	笠利町手花部	S46.9.1	有形文化財（歴史）
弁財天（蒲生神社）	笠利町屋仁	S46.9.1	有形文化財（彫刻）
宇宿稲すり踊り	笠利町・名瀬・宇検村・瀬戸内町・大和村	S46.9.1	無形民俗文化財
用シユンカネクワ	笠利町用	S52.7.11	無形民俗文化財

歴代市長・教育長・議長等 (令和5年4月1日時点) ※敬称略

●歴代市長

初代 平田 隆義	H18.4.23	～	H21.11.30
2-4代 朝山 毅	H21.12.1	～	R3.11.30
5代 安田 壮平	R3.12.1	～	R7.11.30

●歴代副市長

初代 朝山 毅	H18.6.3	～	H20.4.30
初代 濱田 龍太郎	H18.6.3	～	H22.3.31
2代 福山 敏裕	H22.4.1	～	H30.3.31
3代 東 美佐夫	H30.4.1	～	R4.3.31
4代 諏訪 哲郎	R4.8.1	～	R8.7.31

●歴代教育長

初代 窪田 能久	H18.3.20	～	H18.6.2
2代 徳永 昭雄	H18.6.3	～	H22.6.2
3代 坂元 洋三	H22.6.3	～	H26.6.2
4-5代 要田 憲雄	H26.6.3	～	R3.6.2
6代 村田 達治	R3.6.3	～	R6.6.2

●歴代議長

初代 前田 幸男	H18.3.24	～	H19.11.19
2代 伊東 隆吉	H19.11.29	～	H21.11.27
3代 世門 光	H21.11.27	～	H23.11.19
4代 向井 俊夫	H23.11.25	～	H25.12.10
5代 竹田 光一	H25.12.10	～	H27.11.19
6代 竹山 耕平	H27.11.25	～	H29.12.8

7代 師玉 敏代	H29.12.8	～	R1.11.19
8代 与 勝広	R1.11.25	～	R3.12.8
9代 西 公郎	R3.12.8	～	R5.11.19

●歴代副議長

初代 奈良 博光	H18.3.24	～	H19.11.19
2代 叶 幸與	H19.11.29	～	H21.11.27
3代 与 勝広	H21.11.27	～	H23.11.19
4代 平川 久嘉	H23.11.25	～	H25.12.10
5代 大迫 勝史	H25.12.10	～	H27.11.19
6代 師玉 敏代	H27.11.25	～	H29.12.8
7代 戸内 恭次	H29.12.8	～	R1.11.19
8代 奥 輝人	R1.11.25	～	R3.12.8
9代 橋口 耕太郎	R3.12.8	～	R5.11.19

Map & Data (奄美市の地図と主なデータ)



大浜海浜公園

※件数等は年間の合計数です。

火災件数

9件

R4.1～R4.12月

交通事故

63件

R3.1～R3.12月

犯罪発生

133

検挙 99件
R3.1～R3.12月

乗用車保有数

20,902台

1世帯あたり1.07台
R4.3月未現在

消防職員数

85人

職員1人当たり
市民数472人

医療施設数

48施設

市民853人に1施設
R3.10.1現在

救急出動

2,787回

1日平均7.64回
R4.1～R4.12月

医師数

266人

歯科医師等を含む
H30時点



市街地拡大図



おがみ山からの眺め



モダマの実



フナギョの滝



マングローブカヌー



あやまる岬



土盛海岸
(ともりかいがん)



笠利のさとうきび畑



打田原海岸
(うったばるかいがん)



金作原
(きんさくばる)



奄美市の人口
40,501人
R4年10月1日現在
推計人口

奄美市の面積
308,33km²
R5年3月現在

年間平均気温
21.8°C
県平均 18.6°C

年間降水量
2,975mm
R3年
県平均 2,266mm



市職員数
610人
職員1人当り
市民数 65.7人

世帯数
19,555世帯
R4年10月1日現在
推計人口

平均所得
253万円
一人当り所得
R1所得推計

就業者数
19,897人
R2国勢調査

事業所数
2,398
H28 経済センサス

▶各種データの詳細は
ホームページをご確認
ください。
数字でみる奄美市
(奄美市ホームページ)



奄美市の位置

奄美群島は、鹿児島市の南西約370～560kmの範囲に広がる有人8島（大島本島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島外3島）の総称で、総面積は1,239平方キロメートル（大島本島は約720平方キロメートルで沖縄本島、佐渡島に次ぐ面積）です。



奄美市は、その奄美大島の北部に位置する群島の拠点都市で、面積は308.33平方キロメートル（令和5年3月時点）、南は太平洋に、北は東シナ海に面しています。

気象

奄美大島の気候は亜熱帯海洋性で、四季を通じ温暖です。降水量は全般的に多く、年間2,800mmを超える雨が降ります。梅雨は本土より1ヶ月も早く5月上旬に始まり6月下旬に終わります。また、日最高気温が25°C以上の夏日の期間が100日以上もあり、夏場は台風の常襲地でもあります。

参考：令和4年度「数字で見る奄美市」より

KAGOSHIMA PREF.



鹿児島県奄美市 市勢要覧2023

令和5年6月発行
編集・発行 奄美市役所 企画調整課
〒894-8555
鹿児島県奄美市名瀬幸町25番8号
TEL:0997-52-1111 FAX:0997-52-1001

▼奄美市ホームページ



奄美・沖縄
世界自然遺産

AMAMI・OKINAWA World Natural Heritage